



神社本庁  
「過疎地域神社活性化推進事業」指定神社  
期間：令和三年七月一日～令和六年六月三十日



ともかき

第 27 号

発行：妻垣神社社務所  
宇佐市安心院町妻垣 203 番地  
発行日：令和 5 年 5 月 15 日  
電話：0978-44-2519  
http://www.tumagakijinnjya.com

↑ 元宮「足一騰宮」が鎮まる共鑰山を仰いで祝詞を奏上する宮司

## 妻垣神社の原点 2690年続く元宮祭

### 都麻垣宮旧事記

つ まがきぐうくじき  
第一代神武天皇となる神倭伊波礼昆古命曰く、「何と素晴らしい処だ。連なる山々は長城のようであり、川は静かに流れ清らかだ。朝靄が地に広く行き渡り、玉のような露が天に広がる。まことに豊饒の地である。その中央にある共鑰山は多くの峰より抜きん出ている。私は母后玉依姫命の御霊をここに祭りたい。」と申され、御自ら祭祀を行いました。すると突然山河は揺れ動きだし、川中の大石に神女がお立ちになり、「私は多くの人を救いたいと思う。私の浴びた水は清浄である。河の水と私の浴びた水の及ぶところは末代まで汚させてはならない。石の上に私の足跡を留める。疑うことなかれ。」と告げられ、すぐさま共鑰山上に騰がられ、原廟にお鎮まりになりました。天皇はこの原廟を「足一騰宮」と名付けられ、東国へと旅立たれたのです。

今からちょうど二千六百九十年前、日向より大和へ御東征の砌、当地を訪れた神武天皇は御母玉依姫命(比咩大神)の御霊を共鑰山にご奉斎。侍臣天種子命に足一騰宮の守護をお命じになり東国へと旅立たれました。以降その子孫が宮を護り、祭事を執り行ってきました。ここに妻垣神社の歴史が始まったのです。

天平神護元年(七六五)には台地上に社殿が創建され、足一騰宮を元宮(上宮)、社殿を下宮と定めました。当社では毎年四月、元宮に鎮まる比咩大神の大祭「元宮祭」を斎行しております。かつては共鑰山の拝殿にて神事をおこなっていましたが、昭和の初期に解体。現在は下宮の祓所からの遙拜式で執り行っています。

元宮祭は当社最古、そして根幹となす神事であり、今後も絶やすことなく、受け継ぐべき大事なお祭りです。



# 比咩大神が現われた 足一つの印岩の保存

毎年異常気象と言われて久しい近年、突発的な大雨、台風による河川の氾濫は多くの被害をもたらしています。現在、大分宇佐土木事務所では神社に隣接する深見川の掘削工事を実施すべく、先般測量調査が終了。今後数年をかけて工事をおこなっていくとのことです。

人々の生活や生命の安全を守るべく必要なことですが、神社にとつては注視すべき案件です。というのも、川中には神社にとつて社殿同様に大切な物があり、それは比咩大神(玉依姫命)が最初にこの地に御出現になり、足形を付けられた「足一つの印岩」があるからです。



↑ 川中にある足一つの印岩

↓ 樹木を伐採し整備された薬師堂周辺  
昨秋にはお薬師ウォーキングを開催



今後の課題としては継続しての管理です。道については市道であるため、宇佐市が責任を持って整備していただけることを願うばかりであり、御堂周辺も定期的に伐採や下刈りをする必要があります。維持費など周辺地域の協力をいただきながら、護っていかねばならない地域の遺産です。

前頁でも紹介しましたが、比咩大神は「河の水と私の浴びた水の及ぶところは末代まで汚させてはならない。」と告げられており、これを重んじて、かつて十月の例大祭には神職が大岩の前で祝詞を上げ、お祓いをしていたとも聞きます。そのため信仰の対象とされ、今でも時折、お参りに来られる方もいるなど、次世代に伝えるべき大事な遺産なのです。

また周囲には烏帽子岩と呼ばれる大岩もあり、古い文献にも紹介されるなど同じく歴史的遺産です。

当社では周囲の保全のため、先日、事務所へ赴き陳情して参りました。先方も大いにご理解下さり、工事に反映してくれるとのことでした。

ともあれ、当社の根幹に繋がる今回の工事。多くの人に知って戴きたいと思いを紹介した次第です。

## 疫病や災厄より安心院を護る四薬師 南の薬師堂の周辺整備事業おこなう

前々号で紹介した安心院四薬師の内、南方を守護する薬師堂は当社裏参道となる市道参宮線沿いにあります。しかし山からの土砂や鹿・猪被害によって通行が難しいほど道は荒廃しており、早期の復旧が望まれていました。今度、社報で紹介したことをきっかけに、安心院まちづくり協議会の協力のもと、御堂周辺の樹木の伐採や道の土砂や岩などを撤去していただき、お参りに行けるようになりました。

また出入口と対岸各所に薬師堂の説明看板も設置して下さいました。



↑ 龍王集落側の川岸にも説明看板を設置

## 特集 松本清張没後30年記念

# 清張は何故 妻垣神社を目指したのか？

令和4年は昭和の文豪松本清張が逝去されてより30年となります。(平成4年8月4日没 享年82歳)  
清張作品は令和の時代となってもドラマや映画で何度もリメイクされており、今尚根強く支持されています。  
そのうち氏の作品「陸行水行」にてその舞台として当社が登場します。そのきっかけは氏が作家となる以前まで遡ります。氏の作品に当時のエピソードが記されておりますので紹介したいと思います。



↑ 清張は「古代人の住居の条件として、水のある場所、陽当りのいい所、聚落に通ずるような盆地であること」と本紙で紹介。安心院はまさにそれに適した地である。

お宮は、その老婆の隣家の片脚をなくした傷痍軍人が案内してくれた。かなり高い広陵の中腹に祀られていて、古風な格式を持っていそうな神社だった。

断っておくが、このとき私は安心院という土地には何らの予備的知識がなかった。五万分の一の地図を見て、はじめてそこに盆地を発見したくらいである。

土地の人に訊くと、盆地の西側の山裾にそのお宮があるという私は勇んでそこに直行した。……ふと見ると、百姓家の裏口に老婆がしきりに働いている。……実はこの山の中に祀られているお宮さんへ小倉からはるばる参詣にきたのだ、と云うと、老婆は俄かに顔色をよくして、それなら腹が減ってるだろうから飯を炊いてやろう、と云った。いい婆さんだった。

この山上に巨石が置かれてあって、それが御神体だとも説明された。見上げると、鬱蒼とした山林の中なので、私もそこまでは足が進まなかった。その代り、お宮の隣に学校がある、訊いてみると、日本では四つしかないうちの一つで、神主さんを養成する所だと云っていた。伊勢の神宮皇学館などと同じである。……

「足一騰宮」の遺跡を発見した私の喜びは大きかった。何の予備的な知識もなく、単純に古代人の居住の条件だけを考えてやって来たのである。

おわり

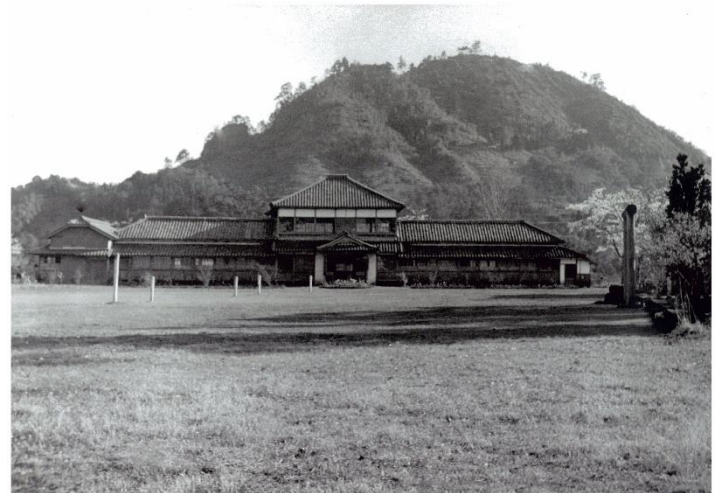
## 『考古学行脚』 其の二

(『新気流』第十六号より 昭和三十七年四月一日発行)

### 【前号のあらすじ】

私が初めて大分県その安心院という土地を訪れたのは、昭和十七年だった。当時、考古学に凝り宇佐神宮に興味を持っていた私は、朝日新聞大阪本社石川銀次郎氏と出会い、「足一騰宮」を探すこととなる。私は地図を拡げ、この宇佐川の上流がかなり広い盆地になっていることを「発見」した。

私は、この地こそ「足一騰宮」の遺跡でなければならぬと思った。もつともそれはこの書紀の伝説をそのまま信じてのことだが、伝説もまた何かの遺跡につながっていると思ったのだ。殊に神武天皇の「聖跡」となれば、そこにお宮があるはずだと考えた。



↑ 騰宮学館 大正3年、林正木氏が私財を投じて創設



半年に感謝し、半年を祈る  
なごしおおはらえ

# 夏越大祓祈願祭

6月25日(日)午後3時より



③ 潮搔神事  
しおかき  
当日の早朝、宮司が関の江の海岸に赴き、汲んだ潮水で心身共に浄めます

## ① 人形流し

半年間、健康に過ごせたことに感謝し、自身の代わりに「ヒトガタ」を共鑿山の御神水で浄めます



## ② 茅の輪くぐり

半年の無病息災を祈って、茅の輪をくぐります  
茅の輪は7月下旬まで設置しますので、ご参拝ください



夏越大祓神札  
宮司が一体ずつ奉製  
御参拝の方に授与します

## 風鈴まつり

—短冊に願いごとを託して—

期間：6月下旬～9月秋分の日



願い短冊200円(材料費、防水加工済み)

3月14日、癒やしの音を奏でるクリスタルボウルの奉納演奏がありました。  
奉納いただいた横浜 USA の会(主宰 山上智)は、横浜を中心に関東在住の宇佐市を応援する人たちの団体です。当日の様子については、YouTube の横浜 USA の会の法泉チャンネルでご覧いただけます。

<https://youtu.be/OA2UlkoJGG8>



横浜USAの会 クリスタルボウル奉納演奏